

PRESENT

アンケートに答えてプレゼントをGETしよう!

応募期間
4/1~4/30

A 戸塚煎餅
たび煎餅詰合せ

3名様



7ページで紹介した戸塚煎餅の「たび煎餅詰合せ」を3名様にプレゼント!

B シャロン
足袋ぱい(12枚入)

3名様



7ページで紹介したシャロンの「足袋ぱい(12枚入)」を3名様にプレゼント!

C 秩父鉄道
SLプレートキーホルダー
PREMIUM ※色は選べません

3名様



秩父鉄道の「SLプレートキーホルダー PREMIUM」を3名様にプレゼント!

秩父鉄道ホームページ内の
応募フォームからお申し込みください。

秩父鉄道 検索 または



秩父鉄道
公式アカウント

旬な情報を配信中!
お出かけ前に
チェックしてみてください

@paleo_palena

秩父鉄道公式チャンネル

chichibu_railway

編集後記

今号では初めて、ひとつの地域に絞った特集をお届けしました。いかがでしたでしょうか。この写真は「水城公園」から見たVERTCAFÉなのですが、モダンな外観と風景がマッチしてまるで外国の絵画のよう。緑の多いこの公園は散歩すると多くの鳥さんに出会えるかも♪では次号もお付き合いいただければと思います。



今月号の表紙: VERTCAFÉ (P5掲載)



秩父鉄道沿線グルメ旅 シールラリー

秩父鉄道を走るフルラッピングトレイン「彩色兼備」をモチーフとしたシールラリーを今年も開催! シールを集めて、プレゼントをゲットしよう!

開催期間 4月1日(土)~12月31日(金)

シール配布箇所 羽生、行田市、熊谷、武川、寄居、長瀬、皆野、秩父、御花畑、三峰口の各駅窓口(8:00~18:00)
※都合により、急ぎ各駅の営業時間が変更になる場合があります

- シール台紙を秩父鉄道各駅で手に入れる
または、秩父鉄道HPからダウンロード
- シール配布箇所に申し出てシールをもらったら台紙に貼っていく
- シールを集めてプレゼントゲットを目指しよう

※シール台紙、シールはおひとり様1枚まで
※プレゼント引換方法、応募方法詳細についてはシール台紙または秩父鉄道HPをご覧ください

シール3枚
(いずれか3箇所)

彩色兼備ノート
(A5サイズ)

シール10枚
(10駅すべて)

彩色兼備
ステンレスボトル
(10枚集めた方
の中から抽選で30名様)

予告 わくわく鉄道フェスタ2021

列車の展示や体験、ステージイベント、キャラクターの登場など1日限りのイベントを開催します!

開催日時 5月15日(土) 10:00~15:00

開催場所 秩父鉄道 SL 転車台公園

交通 三峰口駅から徒歩2分

※駐車場はございません。列車をご利用ください
※詳細はPALETTE5月号または秩父鉄道HPをご覧ください



「MINAMIKAWARA SLIPPER」プロジェクトのリーダーとして活躍する、南河原商工会経営指導員の佐野和美さんにインタビュー。



足の甲、底、ハカマ部分の組み合わせもいろいろ、左右の柄も違う一期一会のスリッパ AFRICA PAGNEまたはBRAZIL CANGA 3,850円

きどり ストーリー

第41回

沿線でかがやきつづける方に
インタビュー!

佐野 和美さん
(南河原商工会)

かつて日本一の生産量だった南河原のスリッパ

足袋のまち、として知られる埼玉県行田市。今も残されている土蔵造りの足袋蔵の数々は、まちを代表する観光スポットにもなっている。しかし、同市の南河原地区がかつて全国一のスリッパ生産量を誇る地域だった、という歴史を知っている人は少ないだろう。

このあたりでは元々、農閑期の副業として草履の生産をしていたのですが、1954年頃からスリッパ製造が広まり、最盛期には日本のスリッパの8割の生産を行うまでに発展しました。当時は40社以上の工場が立ち並んでいたそう

です」と佐野さん。

高度成長期の波に乗り、順調に生産量を伸ばしていったものの、外国産の安価なスリッパが輸入されるようになってからは、衰退の一途をたどることに。現在稼働している工場は4社のみだ。

伝統技法×大胆なデザインで外国産に挑む

「素晴らしい縫製技術があるのに、このまま廃れていくのはもったいない」

こうして佐野さんが2008年に立ち上げたのが「MINAMIKAWARA SLIPPER」と呼ばれるプロジェクトだ。クリエイティブ・ディレクターの岡田知真さん、デザイナーの荒井典雄さんをメンバーに迎え、斬新で質の高いオリジナルスリッパの製作を始めることに。

その一つがアフリカンパティックと呼ばれる西アフリカの伝統柄テキスタイルを使い、足の甲、底、ハカマ部分に色柄をミックスさせた色鮮やかなデザインのスリッパ。コロナショック後、海外への渡航が難しくなってしまう日々でも、旅行気分を味わってほしい、との思いも込められている。

また、SDGsの観点から北海道で畜産駆除されたエゾ鹿の革を使ったパプーシユの製作にも取り組んでいる。生地がやわらかいので履き心地がよく、使い込むほどに味が出てくる逸品だ。こちらはまだ試作段階だが、今年中には販売予定だという。



試作のパプーシユ

お菓子の箱からひらめいたというスリッパのパッケージは、開けるのも楽しい!自由な発想から生まれた箱の製作も市内の段ボール工場。

商工会だからこそできる地域振興への取り組み

「今それぞれのスリッパ工場が単体で新たなブランドを作ったり、新しいデザインや素材に挑戦することは一定の投資額が必要になりますし、ハードルが高いです。だからこそ、商工会として私たちがこういう取り組みをすることに意味があると思うんです」と佐野さん。

今は量産体制が整っておらず、収益化には時間が必要だが、藍染技術を取り入れたり、畳を組み合わせたりと地場産業とコラボしていくことで、地域活性化に繋げていくこともねらいの一つだという。また、ECサイトや動画サイトでのプロモーションなど、世界に向けて発信は始まったばかり。「スリッパのまち南河原の復活を目指し、佐野さんの奮闘は続く。」

商品の購入は南河原商工会(埼玉県行田市南河原921-6) 048-557-0742、または公式サイトまで